様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４３０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２７９３

研究課題名（和文）「朝鮮資料」から見た中・近世口語の変遷

研究課題名（英文）A Diachronic Analysis of Medieval and Late Medieval Japanese and Korean in the "Korean Materials"

研究代表者
朴　真完（PARK, Jinwan）

京都産業大学・外国語学部・教授

研究者番号：９０４４１２０３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：「朝鮮資料」の本文は原文（日本語）と対訳文（朝鮮語）を対訳形式で記した箇所が多いため、本研究では「朝鮮資料」の資料性を生かして、朝鮮語との対照分析を通して中世から近世にかけての語彙・文法の変遷について記述した。また新資料の発掘にも努め、日本語と朝鮮語の研究資料に資するものとして、東京外国大学所蔵本『交隣須知』(1881)を学界に公表し、その内容を細かく分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、まず朝鮮資料の異本間における比較・対照研究を行った。具体的には語彙・文体など全般的な問題まで進み、日本語史において近世の口語に関する記述も試みた。 また、「朝鮮資料」における日本語の位相の問題として、特に中層が使っていた口語体を一部究明し、また近世日本語と近代朝鮮語における口語体の特徴について新しい知見を得た。

研究成果の概要（英文）：Since a Japanese text of the "Korean Materials" are mostly translated into a Korean text one by one, this research investigates changes in the grammar and vocabulary of Japanese and Korean from the 15th century to the 19th century in a comparative analysis. Additionally, I investigated a new "Korean Materials" which contribute to explaining the history of the Japanese and Korean language, including a Korean-language textbook "Korinsuchi" TUFS version (交隣須知, 1881).

研究分野：日本語史、対照言語学

キーワード：朝鮮資料　日本語史　朝鮮語史　文法史　語彙史　対照研究　交隣須知　終結語尾

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

(1)「朝鮮資料」は、朝鮮時代司訳院で日本語通訳官を養成するために編纂した教科書、例えば会話教科書『捷解新語』（原刊本 1676 年）、辞書『倭語類解』（1780 年代）など、中・近世日本語に関する教科書類が中心となっている。また日本における朝鮮語通詞教育のために使われた教科書類、『隣語大方』『交隣須知』など近世語を反映する文献も多数含まれる。

(2) 形式面から見ると、「朝鮮資料」は日本語の原文に朝鮮語で翻訳を付ける「対訳」という特殊な形式を取っており、さらに本文はテキストの内容は変えず、日本語の変化がある箇所のみを改訂しているので、両国語の対照分析を通して、日本語と朝鮮語の歴史、特に中・近世語の姿を再現することは勿論、中世から近世までの朝鮮語の歴史的な変遷を把握できる絶好の資料となる。そのために「朝鮮資料」の日本語を正確に分析するためには、中・近世日本語のみならず、その対訳語として付された中・近世朝鮮語からの情報も最大限参照しつつ、日朝両言語の歴史的な変遷に関する研究を総合的に行う必要がある。

２．研究の目的

本研究では「朝鮮資料」の中で「口語性」を反映する文献を対象に、中・近世日本語における口語と文語の差や階層による言葉の差に注目しながら、「朝鮮資料」の口語研究資料としての可能性を探るとともに、①「朝鮮資料」の編纂者が目指した言葉の特徴について報告し、②中世から近世にかけての口語における変遷過程を究明することを目的とする。

３．研究の方法

本研究では、日本語と朝鮮語を対照する時、既存の「史的比較研究」と「対照言語学」の方法論の長所を集約した「歴史対照研究」という新しい研究方法を用いる。具体的には、歴史的につながりのある両言語を比較して、その関連性を解明することと共に、共時的な立場から両言語の各面にわたって対照する方法である。つまり、両国語の歴史的な変化を対照する時にも、現代語における対照研究の成果を積極的に活用する。以上の研究方法を活用して、多角的観点からの分析を行い、日本語史と朝鮮語史に関わる諸問題の解決に向けて研究していく。

４．研究成果

(1)「朝鮮資料」に反映されている口語の特徴や中世語から近世語までに起きた口語の変化について調べるために、本研究では常に斬新な表現を要求する副詞を対象に分析を行った。『捷解新語』と『隣語大方』、そして『交隣須知』にはいずれも情態副詞、程度副詞、陳述副詞などの副詞が頻繁に用いられており、さらに用例中には方言的な要素も確認されるので、当時、実際庶民の口から出てきた話し言葉を反映していると考えられる。この時、「朝鮮資料」の本文は原文（日本語）と対訳文（朝鮮語）を対訳形式で記した箇所が多いため、対訳語の意味情報を活用する方法が有効である。

(2) 2017 年度においては、以上のような「朝鮮資料」の資料性を生かして、朝鮮語と日本語副詞の意味実現における特徴について記述を試みた。具体的には、日本語と朝鮮語の副詞‘ ilil-i/いちいち ’と‘ hana-hana/ひとつひとつ ’を対象に出現環境を肯定・中立・否定の文脈に分けて調べた。その結果、両者の用法は文脈によって異なり、‘ ilil-i /いちいち'は否定的文脈で、‘ hana-hana/ひとつひとつ'は肯定的文脈で用いられていることが分った。このような意味的分布は「意味韻律(Semantic Prosody)」（Louw、1993）の観点から、肯定的意味の述語と共起する場合は‘ hana-hana /ひとつひとつ'が選択され、否定的な意味の述語と共起する場合は‘ ilil-i/いちいち'が選ばれることと解釈できる。

(3) 2018 年度は「朝鮮資料」に属する新しい文献の発掘にも努め、日本語と朝鮮語の研究資料に資するものとして、東京外国語大学所蔵本『交隣須知』（1881）23 種（図書記号 K/II/234～256）を学界に公表し、その内容を細かく分析した。『交隣須知』は，758 語の見出し漢語を「天文・地理…」など内容別に配列した会話用例集であり、その構成は日本語・朝鮮語の対訳形式で短文を挙げる形となっている。両国語の口語を中心に収録されたため、語義のほか、豊富な用例を挙げて用法を示しているので、日本語の重要な転換期に当たる中世語から近世語までの口語変化を的確に観察できる文献となる。

『交隣須知』は元の写本（1804～1836 推定、京都大学所蔵本）が刊本として印出される過程で 2 回（1881 年と 1883 年、いずれも外務省刊）改訂され、中でも東京外大本は初刊本（1881）に

当たり、当時、東京外国語大学の朝鮮語教科書として活用されていた。さらに前間恭作・藤波義貫共訂による「校訂交隣須知」(1904)の存在を念頭に置けば、『交隣須知』の原文テキストを時系列に比較する方法によって、19 世紀初から 20 世紀初までの 100 年間に起きた両国語の変遷を把握可能となる。

(4)本年度は刊本内部での言語変化に注目して東京外大本(1881)の校訂内容を中心に調べた。具体的には、東京外大本（1881）のテキストに施された校訂（校正・修正）内容を対象として、分量の最も多い終結語尾の変遷を中心に調べた。東京外大本には教授による校正が朱・墨で、学生による修正が鉛筆書きで記されており、原文に散在している印刷上の欠陥及び誤字と脱字を補完する役割を果たした一方、転換期における言語変化、すなわち古い表現を修正して当時の言語現実を反映しようとしたのである。

そのうち、朝鮮語における言語変遷の例を挙げると、例えば、丁寧表現の「hao 体」が口語体にも使われ、19 世紀に入って命令形としては‘-si-'を付着した"hasio"型が活発に使用されたことが分かる。さらに後の「校訂交隣須知」(1904)からは確認されない通時的変化として、以上の"hasio"型の拡散過程はもちろん、非格式体の終結語尾（‘-ayo'、‘-jiyo'と‘-neyo'）が丁寧表現の全範囲にわたって使われたことが確認できる。

(5) 2019 年度は対訳資料としての「朝鮮資料」の資料性を生かして、原文と対訳文を対照しながら二重否定表現の意味を分析した。未だに不明だった朝鮮語の二重否定表現‘-ji anoel su eops-'の意味を分析するために、日本語対訳コーパスを用いて対照研究を行った。具体的には「21 世紀世宗計画コーパス」に出現する‘-ji anoel su eops-’4,563 個の用例を分析した。その結果、‘-ji anoel su eops-’は 3 つの意味[不可避]、[当為]、[必然発生]として使われたことが分かった。このような意味分化は、‘-ji anoel su eops-'の対訳語として登場する日本語の二重否定表現「～ずにはいられない」「～ざるを得ない」「～なければならない」を通しても裏付けられる。

(6)‘-ji anoel su eops-’の意味は、文法的・意味的な条件によってそれぞれの意味が区別されるため、共起する主語の人称、動詞の意志性のような資質を考慮する必要がある。具体的には、(a) 文の主語が 2 人称または 3 人称の場合、‘-ji anoel su eops-’は[不可避]の意味として実現する。(b) 文の主語が 1 人称で感情動詞と結合する場合は[必然発生]として、主語が 1 人称で意志動詞と結合する場合は[当為]の意味として実現する。(c) 特に[当為]は、談話レベルにおいて肯定的な文脈で使用された場合に限る。

特に‘-ji anoel su eops-'は、(b) で示した動詞以外と結合する時、また中立的かつ否定的な文脈で使用された場合には [不可避]の意味として実現する。要するに、[不可避]は文法的・意味的な制約を受けず広範囲に実現するので、[不可避]は‘ -ji anoel su eops-’の基本意味として認められる。このように「朝鮮資料」の原文と対訳文の関係は相互依存的な関係であるため、文法的意味を調べる際にも互いの言語からの情報が分析道具として十分活用できることを確認した。

＜引用文献＞

① 朴 真完、口語に現れる「ilil-i/いちいち」と「hana-hana/ひとつひとつ」の意味韻律に関する考察、『韓国語学』75 号、2017、pp. 161-188

② 朴 真完、東京外国大学所蔵本『交隣須知』(1881) の校訂から見た 19 世紀末から 20 世紀初までの韓国語敬語法体系、『韓国語学』82 号、2019、pp. 31-72

③ 朴 真完、‘-ji anoel su eops-’の意味分析および教育方案、『韓国語教育』第 30 巻 4 号、2019、pp.101-127

④ Louw, B., Irony in the text or insincerity in the writer? The Diagnostic Potential of Semantic Prosodies, *Text and Technology: In Honour of John Sinclair*, Amsterdam: John Benjamins, 1993, pp. 157-176.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 朴 真完	４．巻 30-4
２．論文標題 ‘-ji anoel su eops-’の意味分析および教育方案	５．発行年 2019年
３．雑誌名 韓国語教育	６．最初と最後の頁 101-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 朴　真完	４．巻 82
２．論文標題 東京外大本『交隣須知』(1881)の校訂から見た19世紀末から20世紀初までの韓国語敬語法体系	５．発行年 2019年
３．雑誌名 韓国語学	６．最初と最後の頁 31-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 朴　真完	４．巻 74
２．論文標題 口語に現れる「ilil-i/いちいち」と「hana-hana/ひとつひとつ」の意味韻律に関する考察	５．発行年 2017年
３．雑誌名 韓国語学	６．最初と最後の頁 161-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 朴　真完
２．発表標題 19世紀末から20世紀初にかけての終結語尾‘-o'と‘-yo'の関連性について考察
３．学会等名 第10回訳学書学会　2018年国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 朴　真完
２．発表標題 韓国語否定表現の特殊例についての考察―いわゆる三重否定表現に関する分析を中心に
３．学会等名 国際韓国語教育学会　第28回国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 朴　真完
２．発表標題 東京外大所蔵本『交隣須知』(1881)に関する言語的考察―終結語尾の校訂様相を中心に
３．学会等名 第９回訳学書学会　2017年国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考